



一般財団法人 地域創造
Japan Foundation for
Regional Art-Activities

令和元年度 公共ホール演劇ネットワーク事業 報告書

『めにみえない みみにしたい』

一般財団法人地域創造

助成事業

一般社団法人全国モーターボート競走施行者協議会

事業概要

目次	1
はじめに	3
実施要綱	4
事業の流れ	7
事業予算	8
公演概要	9
ツアースケジュール	10
チラシ・ポスター	11

実施データ

埼玉県	12
富良野市	13
士別市	14
伊達市	15
北海道	16
久留米市	17
福岡市	18
熊本県	19
東松山市	20
地域交流プログラム	21

記録写真	22
------	----

はじめに

一般財団法人地域創造では、地域における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との密接な連携のもと、全国の地方公共団体や関連の公益法人などが実施する文化・芸術活動に対して財政的な支援を行うほか、財団の自主事業として、研修交流事業、公立文化施設活性化推進、調査研究等の事業に取り組んでいます。

これらの事業の一環として「公共ホール演劇ネットワーク事業」を実施しています。これは、各地域において、上質な演劇公演と、演劇の手法を活用した地域交流プログラム（学校へのアウトリーチ、一般向けのワークショップ等）を実施することにより、観客の創出・育成や子どもたちのコミュニケーション能力・想像力・創造力の向上をサポートする事業です。

令和元年度は、（公財）埼玉県芸術文化振興財団、NPO法人ふらの演劇工房、ARCHあさひ、NPO法人伊達メセナ協会、（公財）北海道文化財団、久留米市、（公財）福岡市文化芸術振興財団、（公財）熊本県立劇場、（公財）東松山文化まちづくり公社の9団体が参加。7月から8月に、彩の国さいたま芸術劇場（埼玉県さいたま市）、富良野演劇工場（北海道富良野市）、あさひサンライズホール（北海道士別市）、だて歴史の杜カルチャーセンター（北海道伊達市）、札幌文化芸術劇場（北海道札幌市）、久留米シティプラザ（福岡県久留米市）、福岡市民会館（福岡県福岡市）、熊本県立劇場（熊本県熊本市）、東松山市民文化センター（埼玉県東松山市）の9地域にて、『めにみえない みみにしたい』（作・演出：藤田貴大）の上演と、地域交流プログラムを実施しました。

この作品は、演劇ならではの見立てや、しりとりやじゃんけんといったゲーム要素、しゃぼん玉などを使った視覚効果など、多様な手法で子どもたちの観劇の敷居を下げ一方、少女の成長や自立、戦争というモチーフにも挑み、子どもから大人まで一緒に楽しんでいただける作品となりました。

地域交流プログラムは、演出家藤田貴大さんによる地図のワークショップを実施しました。町にある日常の風景が紡がれ、最後には小さな演劇となって再現されるプログラムの中で、いきいきと取り組む子どもたちの姿が見られました。

この報告書は、「令和元年度公共ホール演劇ネットワーク事業」において実施した事業内容をまとめたものです。本事業の成果が活かされ、地域のホールが創造的な活動の場となり、ネットワークの形成が活発に行われるようになることを願っております。また、この報告書が地域の公立文化施設の職員や地方公共団体の芸術文化担当者の参考となり、微力ながら公共ホールの運営に役立てられれば幸いです。

結びに、貴重な財源を拠出していただきました一般社団法人全国モーターボート競走施行者協議会をはじめ、本事業の実施にあたりご協力を賜りました全ての関係者の方々に心から厚くお礼申し上げます。

令和2年3月
一般財団法人地域創造

1 趣旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化、情報発信能力の向上を図るとともに、地域の演劇分野における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、複数の地方公共団体等が演劇公演を共同・連携して実施することを支援する。

2 対象団体

演劇事業の実施に関心があり、今後も演劇事業に積極的に取り組む意欲を持っている下記の団体を対象とする。

- ①地方公共団体
- ②地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、公の施設の管理を行う法人その他の団体
- ③地域における文化・芸術活動の振興に資することを目的として設立された公益財団法人等(②を除く。)のうち、地方公共団体が資本金、基本金その他これに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めるもの

3 事業内容

当事業の各参加団体は、次の事業を実施する。

(1) 演劇公演

当該参加団体のある都道府県または市町村内の公立文化施設、その他公演を実施するにあたり適当な施設を会場とし、演劇公演（再演作品）を実施する。なお、公演は原則として有料とし、入場料収入は開催地の主催団体に各々帰属するものとする。

(2) 地域交流プログラム

当該参加団体のある都道府県または市町村内の公立文化施設、その他地域交流プログラムを実施するにあたり適当な施設を会場とし、地域交流プログラムを実施する（地域交流プログラムは、ワークショップやアウトリーチをはじめ、企画展やシンポジウム、セミナー等も含む。）。なお、申請は採択後とする。

4 地域創造の支援措置

(1) 公演事業等に対する助成

地域創造は、公演事業（ホール使用料、現地宣伝費、上演に係る著作権料、現地増員人件費などの現地経費は対象外とする。）及び地域交流プログラムにかかる費用の3分の2を助成する。

ただし、助成金は1,200万円（原則、公演事業1,100万円、地域交流プログラム100万円）を上限とする。

5 参加団体決定手続

(1) 代表団体選定手続

事業で実施する演劇公演についての企画作品及び代表団体を募集する。提出書類等での検討やヒアリングを行い、代表団体を選定する。

①応募対象

演劇公演（再演作品）の実績がある公演団体と一体となって事業を実施できる、前記2に掲げる団体（以下、代表団体という。）。

②応募書類

- ・事業申込書（様式1、様式2）
- ・参考資料（公演企画書、作品の映像または台本）必ず添付のこと。（提出資料は返却いたしません）

③応募期間

平成30年4月25日（水）から平成30年6月29日（金）（必着）まで

(2) 参加団体選定手続

事業で実施する演劇公演についての参加団体を募集する。

①応募対象

選定された代表団体及び演劇公演（再演作品）の実績がある公演団体と一体となって事業を実施できる、前記2に掲げる団体（以下、参加団体という。）。

代表団体は、連携して事業を実施する参加団体4つ以上と共同で応募するものとする。

②応募書類

- ・事業申請書（様式3）
- ・副申書（様式4）※2②及び③に該当する団体が申請する場合に限る。（代表団体のみ、他の参加団体は採択後に提出）
- ・予算書（様式5）
- ・参加意向票（様式6）（代表団体が参加団体から提出されたものを取りまとめて提出）

③応募締切

平成30年8月17日（金）（必着）まで

(3) 実施事業の決定

地域創造は、事業の実現性、予算額、事業実施時期等を検討して上演作品と参加団体を8月末頃を目途に決定する。

6 事業実施体制の整備等（採択後）

(1) 実施体制の整備

参加団体（代表団体含む。以下同じ。）は、参加団体間で協議のうえ、代表となる団体を1団体決定するとともに、事業に最も適した組織づくりを行う。

なお、4（1）の地域創造からの助成金は、原則として参加団体で構成される実行委員会またはネットワーク事務局に対して交付する。

また、事業にかかる経費のうち、地域創造からの助成金を除いた部分の負担の配分については、参加団体間の協議事項となる。

(2) 地域交流プログラムの企画書の提出

代表団体は、参加団体間で協議のうえ、地域交流プログラムの企画内容を記載した企画書等を提出する。

(3) 合意書の締結

参加団体は、参加団体間で協議のうえ、本事業実施のために必要な事項（（1）の実施体制に関するものも含む。）を定めた「合意書」を締結する。

(4) 代表団体の役割

代表団体は、（3）の合意書締結のとりまとめのほか、ネットワーク事業に必要な会議の開催や収支管理、事業報告及び決算報告を行うこと。

7 助成金の申請及び交付手続（前記4（1）に係るもの）

(1) 助成申請

代表団体は、参加団体間の合意書の締結後すみやかに、平成31年度公共ホール演劇ネットワーク事業助成金交付申請書を提出すること。

(2) 助成決定

地域創造は提出された助成金交付申請書を審査し、助成承認額を決定し申請者に対して通知する。

(3) 助成金前金払い

代表団体は、前金払いを請求しようとする場合は、助成金交付決定通知後、平成31年度公共ホール演劇ネットワー

ク事業助成金前金払請求書を地域創造に提出すること。

なお、前金払いの額は、助成金交付決定額の80%を限度とする。ただし、特に必要があると認められる場合は、全額を前金払いすることができる。

(4) 実績報告

代表団体は、事業完了後30日以内（事業終了が3月16日以降の場合には4月15日までに）平成31年度公共ホール演劇ネットワーク事業実績報告書を提出すること。なお、実績報告書には、作成したポスター、チラシその他成果品、新聞・雑誌の掲載記事等を添付すること。

(5) 助成金の確定・交付

地域創造は、提出された実績報告書に基づき、その交付すべき助成金額を確定した上、通知するとともに助成金を交付する。

なお、確定額は、助成承認額と事業実績額のうち地域創造の助成対象となる額とを比較し、いずれか低い方の額とする。

8 損害賠償の免責等

参加団体は不測の事態により事業を中止した場合等の損害の補填として損害保険等に加入すること。また、事業の実施に伴い発生した損害賠償等の責任について、地域創造は責めを負わないものとする。

9 公演クレジット

次のクレジットを基本とする。

主催：開催地の主催団体

公共ホール演劇ネットワーク事業参加団体：参加の地方公共団体

助成：一般社団法人全国モーターボート競走施行者協議会、(一財)地域創造、公共ホール演劇ネットワーク事業

10 その他

この要綱に定めるもののほか、事業実施に必要な事項（地域創造が交付する助成金の申請様式など）については、別途定める。

事業の流れ

時期／区分	フ ロ ー 図
平成30年 4月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">代表団体及び上演作品募集 ・ 4月25日発行地域創造レター 5月号にて周知 募集締切（6月29日）</div>
7月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">代表団体名及び作品名を地域創造のホームページ上で公開。 参加を希望する団体は、各代表団体に直接、連絡する。 代表団体は、参加を希望する団体をとりまとめて地域創造へ申請。 申請締切（8月17日）</div>
8月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">上演作品及び事業参加団体の決定</div>
平成31年 2月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">地域交流プログラムの企画書等の提出</div>
4月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">合意書の締結及び制作会議の開催（4月12日）</div>
令和元年 7月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">演劇公演及び地域交流プログラムの実施</div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">中間報告会議の開催（7月14日）</div>
8月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">演劇公演及び地域交流プログラムの実施（後半）</div>
9月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">決算報告会議の開催（9月18日）</div>
11月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ネットワーク事務局から実績報告書提出・助成金の確定交付</div>
令和2年 3月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">事業報告書作成・配布</div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">一般社団法人全国モーターボート競走施行者協議会へ実績報告書提出</div>

事業予算

費 目	金 額	摘 要
文芸費	3,422,630	作曲・編曲料／脚本料／演出料／デザイン費(照明プラン料)／舞台監督料
出演料	2,533,680	出演料
舞台費	4,318,304	舞台スタッフ費／大道具・小道具費／照明費(機材費・人件費・その他)／音響費／映像費／衣装費
公演費	52,564	交通費
制作費等	2,665,651	損害保険料／興行中止保険料／写真費／録画費／宣伝美術デザイン費／宣伝イラスト費／宣伝写真費／プログラムデザイン費／プログラム印刷費／出演者等交通費／手数料／日当費／制作スタッフ費／制作雑費
ネットワーク費	953,813	交通費／宿泊費／日当
地域交流プログラム	630,877	講師料／雑費
合 計	14,577,519	
参加館負担金(合計)	4,859,173	
さいたま	1,056,341	(5ステージ)
富良野	211,269	(1ステージ)
士別	211,269	(1ステージ)
伊達	422,537	(2ステージ)
札幌	633,805	(3ステージ)
久留米	422,537	(2ステージ)
福岡	845,073	(4ステージ)
熊本	633,805	(3ステージ)
東松山	422,537	(2ステージ)
地域創造助成金	9,718,346	(対象経費の2/3、上限1200万円)
雑収入		利息

『めにみえない みみにしたい』 公演概要

【作・演出】

藤田貴大

【出演】

伊野香織、川崎ゆり子、成田亜佑美、長谷川洋子

【スタッフ】

- ・音楽：原田郁子
- ・衣装：suzuki takayuki
- ・照明：南 香織
- ・音響：竹内和弥
- ・映像：召田実子
- ・ヘアメイク：大宝みゆき
- ・舞台監督：須田雅子
- ・宣伝美術：名久井直子
- ・宣伝イラスト：ヒグチユウコ
- ・宣伝写真：井上佐由紀

【企画制作】

公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団、合同会社マームとジプシー

【あらすじ】

おねしょに悩むおんなのこは、飼い猫のにゃあにゃあちゃんから聞いた古い言い伝えを叶えるため、夜の森へ出掛けて行きます。おかあさんも子どものころに出かけた森には、たくさんの動物たちや不思議な生き物、妖精たちが住んでいました。森で出会った狩人に案内されて森の奥へ進むおんなのこ。やがて辿りついた古いおうち。となりの森と戦争が始まろうとする中、おんなのこが古いおうちで見たのは…。

ツアースケジュール

日程		会場	内容	キャスト・スタッフ移動		
7月	7日	日	彩の国さいたま芸術劇場	地域交流プログラム・舞台稽古	日帰り	
	8日	月				
	9日	火				
	10日	水		仕込み・舞台稽古	↑	
	11日	木		舞台稽古		
	12日	金		舞台稽古		
	13日	土		①公演15:00	日帰り	
	14日	日		②公演11:30 ③公演15:00	↓	
	15日	月(祝)		④公演11:30 ⑤公演15:00		
	16日	火				
	17日	水				
	18日	木				
	19日	金				
	20日	土				
	21日	日				
	22日	月				
	23日	火				
	24日	水				
	25日	木				
	26日	金				
	27日	土				
	28日	日				
	29日	月				
	30日	火				
	31日	水				
	8月	1日	木			
		2日	金	富良野演劇工場	地域交流プログラム・仕込み	富良野着
		3日	土		舞台稽古・公演15:00	
		4日	日	あさひサンライズホール	地域交流プログラム・仕込み	富良野→土別
		5日	月		舞台稽古・公演18:00	
		6日	火		移動日	土別→伊達
7日		水	だて歴史の杜カルチャーセンター	地域交流プログラム・仕込み・舞台稽古		
8日		木		①公演11:30 ②公演15:00		
9日		金	札幌文化芸術劇場	地域交流プログラム・仕込み・舞台稽古	伊達→札幌	
10日		土		①公演11:30 ②公演15:00		
11日		日		③公演11:30	札幌発	
12日		月				
13日		火			久留米着	
14日		水	久留米シティプラザ	地域交流プログラム・仕込み・舞台稽古		
15日		木		①公演11:30 ②公演15:00		
16日		金	福岡市民会館	地域交流プログラム・仕込み・舞台稽古	久留米→福岡	
17日		土		①公演11:30 ②公演15:00		
18日		日		③公演11:30 ④公演15:00		
19日		月	熊本県立劇場	地域交流プログラム・仕込み・舞台稽古	福岡→熊本	
20日		火		①公演11:30 ②公演15:00		
21日		水		③公演11:30	熊本発	
22日		木				
23日		金	東松山市民文化センター	地域交流プログラム・仕込み・舞台稽古	東松山着	
24日		土		①公演11:30 ②公演15:00	東松山発	

【チラシ】



【ポスター】



■公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団



■彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

[所在地]：埼玉県さいたま市中央区上峰3丁目15番1号

[公演（公演日・開演時間・入場者数）]

7月13日（土）・15：00・124人

7月14日（日）・11：30・119人／15：00・128人

7月15日（月・祝）・11：30・157人／15：00・109人 合計637人

[地域交流プログラム（実施日・時間・参加人数）]

7月7日（日）・13：00～16：00・20人

（県内在住・在学の小学生向けワークショップ・参加費500円）

[入場料金]

大人 2,000円、子ども 1,000円

■この事業への参加理由

本作は、地域の子どもから大人までが豊かな観劇体験を実現できるよう、さまざまな会場条件下でも上演可能であることを念頭に置いて創作された。初演の好評を受けて全国巡演の機会に恵まれたため、本事業を活用して各地での公演の実現を目指した。

本事業は、公演経費の大部分が参加団体からの負担金や（赤字補填方式ではない）助成金で賄われるため、各団体の実情を踏まえた予算で実施されれば、予算規模の小さい団体でも無理のない負担で事業に参加することができる。こうした本事業の利点を活かし、当財団がこれまで連携してきた団体とは異なる、新たな団体とのネットワーク構築、ノウハウの共有を期待した。

■この事業全体を振り返って

作品は初演時の完成度が高かったため、大幅な修正やトラブルもなく開幕することができた。2か月あまりの稽古及び公演期間であったが、キャスト・スタッフともに体調不良や大きなケガもなく、また台風に伴う公演中止もギリギリのところまで回避でき、無事に完走することができた。

本事業では9会場を巡演したが、各団体の担当者の尽力でスムーズに公演を実施することができた。とりわけ、公益財団法人北海道文化財団と公益財団法人福岡市文化芸術振興財団の各担当には、地域の取りまとめ役として、交通手段の確保等で尽力いただいた。

地域交流プログラムでは、参加者の日常を再現する「地図のワークショップ」を実施した。小学生全般を対象としているため、低学年と高学年が同じ時間軸で作業を行うことの難しさもあったが、回を重ねるごとに改善することができた。

■今後の事業展開

子どもから大人までの幅広い観客を対象とした演劇作品のニーズの高さを改めて実感した。幼少期から舞台芸術に触れることは、観客の情操教育という点のみならず、演劇界においても創客という重要な意義を持つ。今回の経験を活かし、子どもから大人までが楽しめる作品を継続して創作し、演劇界の活性化へ繋げていきたい。

連携した各団体とは良好な関係を築くことができた。本事業での出会いを1度きりのものとせず、継続的に発展させていきたいと考えている。また、今回は縁がなかった他団体とも、今回のノウハウを活かして新たな連携を模索したい。

■ NPO 法人ふらの演劇工房



■富良野演劇工場 舞台上

[所在地]：北海道富良野市中御料

[公演（公演日・開演時間・入場者数）]

8月3日（土）・15：00・119人

（大人79人／高校生以下37人／膝上3人）

[地域交流プログラム（実施日・時間・参加人数）]

8月2日（金）・15：00～18：00・16人

（市内及び近郊の小学生向けワークショップ・参加費無料）

[入場料金]

一般 1,500円、会員 1,000円、高校生以下 500円

■この事業への参加理由

当館は「演劇を核としたまちづくりの拠点」を目指し富良野市が2000年に設立。国内認証第一号であるNPO法人ふらの演劇工房が市から指定管理を委託されている。企画・運営の中心は会員と脚本・演出家の倉本聰氏が氏主宰の富良野塾で育てた地域在住の演劇人たちである。団体の活動はプロデュース公演、道内外から各ジャンルのエンターテインメント上演や太田工場長ら、富良野塾OBユニットが独自に開発した演劇の手法で実施する「表現とコミュニケーション」のワークショップが道内外の学生、企業、一般に受け入れられ、実施要請が絶えない。

今事業については次世代の演劇界を担う藤田貴大氏の作品で、あらゆる世代向けの演出が随所に施されていること、藤田氏のオリジナルのワークショップがあることなど、上演後や実施後に得られる新しい経験が、当館にとって事業の次のステップにつながることを期待して参加した。

■この事業全体を振り返って

・動員数は想定以上の119人となった。客層は30代、40代の女性が44%。10歳以下は20%で、当館の平均的な客層とは異なる新しい世代の動員となった。アンケートでは「大変良い」63%、「良い」が37%を占めほぼ100%の満足度を得ることができた。感想は大多数が藤田作品の世界観に魅了され、子どもらはストーリーに入り込み、作品のメッセージを素直に受け止めたようだった。

・ワークショップは小学生が対象でストーリー性のある長時間の実施で、当館実施のワークショップとは異なることから、今後のワークショップの参考になる部分が多かった。

・予算に対し定員100名程度の作品を実施することは全国の劇場とのネットワークがなければ踏み切れない事業で、貴重な体験だった。各地の事情などを共有することが逐一出来て連帯が生れたと実感している。全体会議時に当館の事業などの事情で、遠方の為あまり出席できない時もあったのは残念だったが、そのフォローもしていただき支障なく事業をすることが出来た。これも連帯の成果の一つと思われる。

■今後の事業展開

・今事業で、次代を担うアーティストの作品を上演できたこと、全国の劇場とのネットワークが強化されたことなどは、当館にとって、新しい大変有意義な経験となった。

・得られた体験や感動を踏まえ、当館では地域の市民・学生・市民劇団・プロの演劇人たちが一丸となり、地方の演劇空間による舞台芸術の取り組みを継続的に行う。

・2020年に20周年を迎える当館では、様々な人々との交流を通して未来へのエネルギーが創出される「人づくり・まちづくりの活動拠点」となる為の事業や活動を行う。そして「演劇を核にして大人も子どもも楽しめる豊かなふるさとづくり」と「日本中の人々が感動を求めて訪れる地域づくり」を目指す。

■ ARCH あさひ



■あさひサンライズホール 舞台上

[所在地]：北海道士別市朝日町中央4038番地

[公演（公演日・開演時間・入場者数）]

8月5日（月）・18：00・94人

（おとな45人・こども49人）

[地域交流プログラム（実施日・時間・参加人数）]

8月4日（日）・14：00～17：00・8人

（チケット購入の小学生対象ワークショップ・参加費無料）

[入場料金]

おとな 1,500円、こども 500円

■この事業への参加理由

少子化が進む当地域では子ども向け・ファミリー向けの事業の展開が難しくなっている。特に演劇公演では質の高い作品を招聘することが実現できず、音楽公演や学校へのアウトリーチでの対応が多くなっており、親子でも、子どもだけでも楽しめる機会を作り出すことが喫緊のテーマの一つであった。

この作品が北海道出身の藤田貴大氏の手によって丁寧に作られており、初演での評価が高かったことは勿論だが、状況の異なる全国の劇場がどのようにして同じ作品の上演に向き合っていくのかというプロセスをリアルタイムで体験できることが今後の事業展開の参考になることが期待できると考えた。実際にメール等での情報交換は密に行われ、劇場によって対応が異なることを実感することができた。

■この事業全体を振り返って

当初は子どもよりも大人の観客が多くなるのではないかと危惧していたが、実際には過半数を子どもが占め、その反応は「不思議を楽しんでいる」という素直なものだった。アンケートには大人が観ることに十分な作品のクオリティを高く評する者が多く、特に親子での観客は生演奏や布を使った演出、キャストとの距離感などでも楽しめたとの感想があった。ワークショップでも実際の舞台に繋がっていくことを実感した子どもが多かった。

今後も幼少期の子どもには、質の高い作品を吟味して提供していくことの重要性を感じたが、実際にそのような作品を地方へ招聘するには財源のみならず多くの問題があり、今回のようにネットワークを組んでの取り組みが事業の実現への大切な手法であることを再確認する機会となった。情報の共有に限らず、折に触れて職員間の交流が新たに生まれたことの意義は大きいと感じている。

■今後の事業展開

全国の劇場とのネットワークは今回の事業にとどまらず今後も継続的に情報交換や共同事業の実現へとつながっていく可能性が高い。担当者や劇場によって対応の方法が異なることを知ることでよりフレキシブルな運営が実現するはずである。

また舞台上での仮設という手法においても、当館では緞帳を開けて客席までも演出空間として使用するなど、これまでになかった方法が実現でき、別な事業でも応用ができるのではないかと感じた。

サイズも地域の人口も異なる劇場同士がどのように連携することができるかという点でも、密に連絡を取り合いながら互いの手法を学び、実現につなげていくことは、今後の別なジャンルなどの公演の実現に向けても有効であることを実感した。

■ NPO 法人 伊達メセナ協会



■だて歴史の杜 カルチャーセンター 大ホール（舞台上）

[所在地]：北海道伊達市松ヶ枝町34番地1

[公演（公演日・開演時間・入場者数）]

8月8日（木）・11：30・100人（おとな70人・こども30人）

／15：00・103人（おとな77人・こども26人）

合計203人

[地域交流プログラム（実施日・時間・参加人数）]

8月7日（水）・10：00～13：00・11人

（市内在学の小学生向けワークショップ・参加費無料）

[入場料金]

おとな 2,000円、こども 1,000円（当日料金同様）

■この事業への参加理由

1. 脚本家 藤田貴大氏が伊達出身であったこと。2. 劇場での観劇に対する観客のハードルを下げる工夫を行っていることに面白さと参加型事業に興味がわく。3. 子どもから大人まで楽しめる演劇作品を上演するという当協会のミッションと、演劇ネットワーク事業の内容が合致した。4. 効果として、子ども達が演劇鑑賞することにより、人との関わり方・自分の意見の持ち方などを考えることが出来たり、学力としては測ることの出来ない共感力や社会性を養う事が出来る機会に繋がる。5. また、その物語を通じて舞台上の人物に感情移入したり、ストーリーに引き込まれたりして優れた芸術表現に触れ、心が動く体験をすることで豊かな表現力が育まれていくこと。その時、その場にいたという質感を体験するということ、体験したことを次世代へと何らかの形で生み出すものを期待した。

■この事業全体を振り返って

【ワークショップについて】「ワークショップ」というタイトルで子どもには敷居が高く難解なのは？ 有象無象の大都市圏ではいざ知らず、伊達市のような地方ではどうかな？ という懸念があり、申し込みが定員を大きく下回り動員が必要なのではないかという心配がありました。結果、ほどよい人数が参集し安心しました。内容も濃密で、子ども達を飽きさせない展開・進行で、当市の青少年教育事業を実施するうえでの参考とさせて頂きたく思います。

【公演事業について】1. 他館のスタッフと会議を重ねることで様々な情報交換をしながら公演制作を行うことが出来た。2. 予算を含む事務的な作業、現場に関する内容など調整の重要性、ワークショップに対する考え方、チラシ・ポスターの作成、チケット販売戦略、告知方法など他館の制作ノウハウを垣間見ることによって、自分たちの公演制作について見つめ直すきっかけとなった。3. 久しぶりの子ども向け演劇公演でしたが、十分満足された数多くのお客様の表情を見ていると、良質な演劇作品を上演し続けることで、市民の演劇に対するニーズはまだまだ伸びるという手ごたえを感じた。

■今後の事業展開

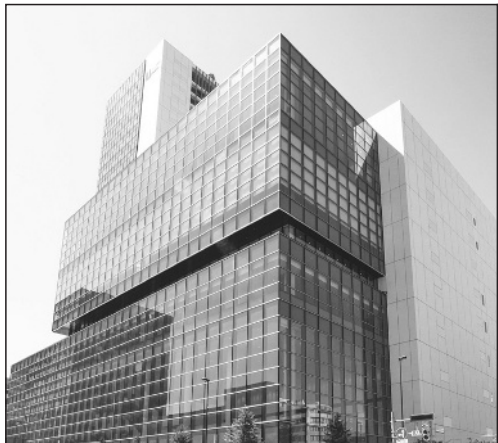
【ワークショップについて】

このような機会がまたあれば、是非伊達市でも開催していただきたく思います。

【公演事業について】

1. これまで主に単独で、独自の事業展開をする事で、地方都市における特色ある舞台芸術の振興を図って来た。更に多くの地域住民に事業内容を理解してもらうには、今回のような演劇作品を通じた全国的なネットワークを構築し、作品の質を上げ、事業内容の周知を徹底的に図る事が重要と考える。
2. 小学生～を対象とした事業の需要があることが大きな発見でもあった。
3. 今回の事業に参加した各地の公共施設ホール担当者とは、今後も連携あるいは場合によっては、共同開催による事業も前向きに検討して行きたいと思う。

■公益財団法人北海道文化財団



■札幌文化芸術劇場 クリエイティブスタジオ

(札幌市民交流プラザ3階)

[所在地]：北海道札幌市中央区北1条西1丁目6

[公演（公演日・開演時間・入場者数）]

8月10日（土）11：30・119人／15：00・124人

8月11日（日）11：30・131人 合計374人

[地域交流プログラム（実施日・時間・参加人数）]

8月9日（金）・13：00～16：00・11人

（道内在住の小学生向けワークショップ・参加費無料）

[入場料金]

おとな 2,000円、こども 1,000円（当日各500円増）

■この事業への参加理由

本作が北海道出身の藤田貴大氏と彩の国さいたま芸術劇場によって創られた良質な演劇作品であり、子どもと大人がともに楽しめる点や、観る者の想像力を高める作品の内容にも魅力を感じ、本事業に参加した。また、全国のホールや地域創造と協働・連携して演劇事業を行い、制作や運営のノウハウを共有することで、今後の事業展開に活かしたいと考えた。

■この事業全体を振り返って

・公演は各回満席で、来場者は大人7割、子ども3割と、当初懸念したとおり子どもの割合が少なかったが、親子や祖父母と三世代で来場するファミリー層も多く見られ、現代演劇の新たな観客の創出に繋がったことを実感した。来場者の反応としては、子どもは感覚的に楽しんでいる様子が見受けられ、大人はそれぞれの記憶に思いを巡らせて、涙が止まらなかったという感想がアンケートでも多く寄せられ、それぞれの世代で多様な見方や受け止め方があったことがうかがわれた。

また、ロビーに設置したプレイスペースで、終演後に親子でゆっくりと過ごしていく方が多かったのが印象的で、劇場の役割や可能性を考えさせられる機会となった。

・地域交流プログラムでは、小学校低学年の参加者が多く、当初は3時間の長さが心配だったが、メリハリのある構成や、相談しながら共同で創り上げていくプロセスに、子どもたちは飽きることなく集中して楽しんでいる様子だった。また、見学する大人側にとっては、日常の一コマが紡がれて、ひとつの演劇が立ち上がっていく様子を目の当たりにできたことは、大変貴重な演劇体験になったことと思う。

・広報面では福岡からの提案で広報誌のコンテンツを複数の団体で共用するなど、他館と制作会議を重ねながら密に情報や課題を共有し、ともにひとつの演劇事業に取り組めたことは、当財団の今後の活動に繋がる大変貴重な経験となった。

■今後の事業展開

今回の事業で築いた他団体とのネットワークを活かし、来年度以降も道内外の団体との連携・協働を深めて、今回のような上質な演劇作品を多くの道民に届ける機会や、子どもたちの想像力・創造力を育む活動を継続的に実施していきたい。特にワークショップや研修事業など、次代の担い手を育てる人材育成事業については、道内各地域と協力しながら積極的に取り組み、北海道の演劇文化の質の向上と裾野の拡大を目指していきたい。

■久留米市



■久留米シティプラザ Cボックス

[所在地]：福岡県久留米市六ツ門町8番1号

[公演（公演日・開演時間・入場者数）]

8月15日（木）・11：30・72人／15：00・73人 合計145人

[地域交流プログラム（実施日・時間・参加人数）]

8月14日（水）・10：00～13：00・14人

（小学生向けワークショップ・参加費500円）

[入場料金]

公演：おとな 3,000円、こども 1,000円、おやこ 3,500円

■この事業への参加理由

久留米シティプラザでは、「子どもの創造力・感性を高める多様な事業の実施」を掲げており、その実現に向けた取り組みとして、令和元年度より「久留米シティプラザキッズプログラム」を始動。子どもから大人まで一緒に楽しめる芸術性の高い作品の提供を目指している。

本作は、演劇初心者も入り込めるよう視覚的な演出の工夫がある一方、少女の成長や戦争といった深いテーマにも触れ、幅広い年齢層に響く作品である。加えて、話題性・芸術性に富んだ作品であることから、キッズプログラムの立ち上げに相応しい演目であると考えた。

また、他館とネットワークを組み、情報交換を行うことで、制作・運営に関するノウハウの向上に繋がると考え、本事業への参加にいたった。

■この事業全体を振り返って

地域交流プログラムでは、最初不安な表情だった子どもたちも、ワークショップを進めるうちに他者とコミュニケーションを取り始め、最後には人前でしっかりと自分の言葉を発するまでの成長にいたった。また、公演終了後、子どものアンケートからは「なみだがでてきた」などの感想もあり、地域交流プログラム、公演ともに心の成長に繋がる非常に意義のあるものであったと感じた。

当館ではお盆時期の公演の場合、直前にチケットが売れる傾向にあるが、大型台風が直撃する予報が早々に出了ことが原因となり、集客面での伸び悩みがあった。実際は台風が直撃することもなく、無事に公演を実施できたが、今後はもっと早い段階でチケットの販売促進を行うなど、広報営業面において課題となった。今回の台風を受け、館として公演実施にかかる判断基準や保険加入の重要性を見直す機会ともなった。

■今後の事業展開

今後、「キッズプログラム」が、子どもの創造力や感性を育てる事業として久留米市に定着するよう、市民性なども考慮した上での作品選びを始め、事業レポートを有効活用するなど広報展開にも力を入れていきたい。今回、会場であるCボックスの舞台3分の2を平土間にし、上演中に電動カーテンを開け外光を入れるなど初めての取り組みを行ったことから、劇場として新たな可能性を見出すことができた。この経験から、劇場のマルチな特性を活かした柔軟な対応を常に意識し、より良いものを市民に提供できるようノウハウの蓄積も視野に入れていきたいと考える。

また、今回構築された劇場間でのネットワークを持続させ、更にはネットワークを広げていくなど、今後も連携を図りながら、情報交換を持って職員のスキルアップを目指したい。そして、いずれは公演ツアーを回すなど次の展開に結び付けていきたいと感じた。

■公益財団法人福岡市文化芸術振興財団



■福岡市民会館 大ホール舞台上

[所在地]：福岡県福岡市中央区天神5丁目1番23号

[公演（公演日・開演時間・入場者数）]

8月17日（土）11：30・94人／15：00・83人

8月18日（日）11：30・92人／15：00・100人 合計369人

[地域交流プログラム（実施日・時間・参加人数）]

8月16日（金）・13：00～16：00・17人

（市内在住・在学の小学生向けワークショップ・参加費500円）

[入場料金]

おとな 2,000円、子ども 1,000円（当日各500円増）

■この事業への参加理由

・当財団では子どもとおとながともに質の高い文化芸術に触れる【親子芸術体験事業】を平成29年に開始。これまで主に演劇、ダンス、音楽の分野において実施してきた。また、管理施設を有さない当財団にとって、市内公共施設の活用方法を毎回模索し、文化芸術に触れてわくわくする芽を育てることを目的の一つとしてきた。

・九州内から全国へと連携・協働するネットワークを拡充させることで、制作面や運営面における知見の蓄積と共有を図り、当財団事業展開の深まりを目指している。

上記をおもな理由として演劇ネットワーク事業に参加することとなった。

■この事業全体を振り返って

【来場者の反応】

・各回とも来場者はおとな約60％・子ども約40％の割合で、設定席数に対する来場者率は約90％。またアンケート回答者（来場者全体の約60％が回答）のうち、市内在住者は80％、当財団事業への初参加者は約70％であった。公演終了後に来場者が会場にとどまる時間も通常より長く、余韻を味わったり、感想を伝えあったりする様子が見受けられた。「とてもよい・よい」という満足度はアンケートのうち約80％を超えていた。

・「夏休み」「森への冒険」「ゲーム要素を取り入れた演劇」「子どもだけでなく大人も楽しめる」「上演は1時間以下」という親子で参加しやすいキーワードに加え、「原田郁子の生演奏」という要素が、結果、新規を含む予想以上の来場者数につながったと考える。

・交流プログラムはその内容から、保護者も見学可能とした。子どもが日頃感じている意外な視点を保護者が発見し、帰宅してからどのような会話がなされていたのか想像が膨らんでいる。

【制作・広報】

・予算と企画内容が早期から綿密に組み立てられており、進行の負担が少なかった。舞台上に客席を設置するにあたり、会場との調整も余裕を持って実施ができ、臨場感ある観劇体験を提供することができた。自然災害の多い時期なので、単独では難しい「興行中止保険」に加入できたのもよかった。

・広報においては、藤田氏が作品に込めた想いを取材できたこと、その内容を札幌、久留米、熊本の広報誌に活用いただけたことが印象に残っている。

■今後の事業展開

・国内に限らず、国外の団体とも連携・協働し、新規性・アピール性の高い事業を継続して展開できるネットワークの構築と知見の積み上げを目指す。

・その成果を地域・言語・年齢・障害等を問わない鑑賞機会づくりに結びつけ、「観る（集まる）」→「おもしろい」→「市内公共文化施設及び文化芸術への興味関心の醸成」→「観る（集まる）」という好循環を目指したい。

■公益財団法人熊本県立劇場



■熊本県立劇場 演劇ホール（舞台上）

[所在地]：熊本県熊本市中央区大江2丁目7番1号

[公演（公演日・開演時間・入場者数）]

8月20日（火）・11：30・118人／15：00・117人

8月21日（水）・11：30・122人 合計357人

[地域交流プログラム（実施日・時間・参加人数）]

8月19日（月）・13：00～16：00・9人

（小学生向けワークショップ・参加費500円）

[入場料金]

一般2,000円、4歳から高校生1,000円、障割1,000円

■この事業への参加理由

当劇場は、県内文化ホールの中核として指導的な役割を果たすとともに、県民に対し質の高い実演芸術に触れる機会を提供しなければならない。特に熊本地震後、子どもたちに向けた心の復興として文化芸術の力は大きなものがあると捉えている。

本作は、次代の演劇界を担う人材として注目を集める演劇作家・藤田貴大が書き下ろした作品で、子どもから大人まで一緒に鑑賞でき、ただ、楽しかったと終わらず少女の成長を通して自立や、戦争というモチーフにも挑戦し、深く心を動かす作品に仕上がっている。今の熊本の子どもたちにみてもらいたい作品であった。

また、最先端の創造型劇場の制作者やアーティスト、北海道から九州まで9カ所の多様なホールスタッフとの連携事業に取り組むことで職員の育成の機会とした。

■この事業全体を振り返って

【制作過程】

早い段階から企画内容と予算が示され、また、ネットワーク制作会議でも作業の段取りや懸案事項について細やかに話し合うことができ進行がスムーズであった。

舞台は、通常のホールの使い方ではなく舞台上に仮設の小劇場空間をつくり、客席を逆向きにする特殊性があった。彩の国さいたま芸術劇場と組む公演は初めてだったため、参加館としては、予算が許すなら、事前に舞台監督に会場の下見をしてもらい、問題点などすり合わせておきたいと感じた。

【来場者】

チケットは、3回公演すべて完売した。来場者は大人と子どもが半々。入場率は、チケット販売数の96%と高かった。アンケートによると演劇鑑賞が初めてという子どもが41%、演劇をまた観たいと答えた子どもが95%だった。公演の内容については、「大変満足・満足」が98%と高かった。

その他、当劇場が社会包摂の取り組みとして企業から協賛金を募り児童養護施設等の子ども達を招待する「ぴっころシート」事業に7施設1組の里親・102名が申し込み公演を楽しんだ。

■今後の事業展開

今回の参加を通して、あらためて、質の高い子ども向け作品の必要性を感じた。

アンケートにもあったように演劇鑑賞が初めてという層が継続して舞台芸術に触れられるように様々なプログラムを提供していきたい。

また、演劇製作の経験値が高い他劇場とのネットワークを大切に、熊本から発信できる地域文化作品の創造につなげることができたらと考えている。

■公益財団法人東松山文化まちづくり公社



■東松山市民文化センター ホール舞台上

[所在地]：埼玉県東松山市六軒町5番地2

[公演（公演日・開演時間・入場者数）]

8月24日（土）・11：30・80人／15：00・67人 合計147人

[地域交流プログラム（実施日・時間・参加人数）]

8月23日（金）・13：00～16：00・10人

（市内在住・在学の小学生向けワークショップ・参加費500円）

[入場料金]

おとな 2,000円、こども 500円

■この事業への参加理由

東松山文化まちづくり公社は、東松山市民文化センターを拠点とした芸術文化の拠点形成に取り組んでおり、一般市民はもとより、学生など様々な年代への芸術文化の浸透を進めている。

平成29年度に演劇ネットワーク事業に参加させていただいた経験から、地域住民への舞台芸術文化の浸透、また職員の制作力の向上につながる事業ととらえており、さらに同じ埼玉県内公共施設である彩の国さいたま芸術劇場の制作作品ということで、県施設との連携という面でも、今後の可能性を考え、参加するに至った。また、作品の性質上、様々な年齢層へのアプローチが可能であるという事も大変魅力的であり、幅広い年齢層へ「演劇」の魅力を伝えることが可能と考えた。

そして、全国各地の劇場との連携による、制作活動の共有や、繋がりを作ることもこの事業に参加する大きな意義と考える。

■この事業全体を振り返って

拠点施設をもって初の演劇事業となったが、開催場所の確保がスムーズに進み、舞台上舞台公演という事による複雑な舞台設営に対しても、舞台管理側と常に打ち合わせを行うことで、スムーズに公演を迎えることができた。広報活動では、市内小学校にチラシの全校配布を行う等、積極的に広報活動を行ったが、どのような公演が分かりづらいという意見もあった為、さいたま公演時の舞台写真等をホールや公共機関に貼るなどの方法を行った。地域交流プログラムでは、参加者は少なかったものの、参加者一人一人に参加証を送った。当日子供たちが嬉しそうにはがきを出す様子に、職員は「おもてなし」の大切さを知る機会となった。藤田氏による演劇ワークショップを体験した子供たち、保護者の方々からは「また是非開催してほしい」という声をいただいた。公演で、舞台上舞台公演を経験できたことは、今後の自主製作作品への、制作面、舞台機構面での大きな収穫となった。非日常を体験する劇場の新たなノウハウを得ることができたと大変感謝している。

本事業に参加し、他館の独自の広報活動や、運営方法を共有できたことは大変有意義であった。また、子供から大人まで幅広い年齢の客層にアプローチできたことは、劇場へ足を運ぶ機会の新たな形を生むことができたと感じている。

■今後の事業展開

本年度より当劇場は、芸術文化拠点施設としての機能強化を図る為、「Higashimatsuyama Art Cross（東松山文化交流）」をスタートする。芸術文化がもたらす街と人の新たな出会い、新しい価値の創造を目指し、人と人のつながりに深く寄与する「演劇」という分野でも、様々なつながりを創っていきたく考えている。また、この事業を通じてつながることが出来た、全国の劇場とのネットワークを活かし、様々な事業での連携や情報共有を行っていきたく考えている。

【地図のワークショップ】

演出家・藤田貴大さんによるこのワークショップでは、「今朝、最初に話した人は？」「会場までの道のりは？」など、参加者に向けて簡単なインタビューをしながら、その風景を劇に起こし、それぞれの風景を再現していきました。

最後には再現されたシーンを藤田さんが構成し、みんなで小さな演劇作品を発表しました。

発表では、参加者それぞれが工作して作ったおうち、そしてみんなでマスキングテープを使って床に描いた町の地図が、舞台セットになりました。

今回のワークショップは小学生対象で行い、子どもたちの視点から、町に点在している日常の風景が切り取られ、再現されていました。

ぼくにとって、はじめての機会だった。小学生のみんなとのワークショップ（しかもっとちいさい子も飛びいりて参加してくれた会場もあった）。おとなと取り組むものとは、まるでちがっていた。まず、たとえば通じる言葉がもちろんちがう、「演劇」とか「空間」とかいう言葉は通用しない。だからまずはとにかく、通じるとおもっていたことは通じなくて、では通じるためにはとかがえてみたときに通じるように言葉を変換していかななくてはいけない。ぼくはそれが面白かった。この作業というか、思考というのは、もしかしたら子どもに対してだけするものでもないとおもう。ふだんから、この意識というのは必要だとおもった。だって演劇というものはいつだって、おなじようなことはあり得ないわけだし、おとななのだとしても、おなじおとなはないのだ。そのことに気がついたし、面白かった。見事に、いつも雰囲気はちがっている。それぞれに向けて、言葉を選んでいく。そのことがとても勉強になった。上演作品といっしょにワークショップも旅をした。ワークショップに参加してくれたみんなが観劇もしてくれるということを、ぼくらは体験できたのだった。ぼくらと過ごした時間は、みんなにとっては、たった何時間かの限られた時間だったのかもしれないけれど、いつかふとしたタイミングで思い出してくれたらいいと、まるで祈るかのように、ぼくもぼくでその時間を過ごしたのだった。

(藤田貴大)





令和元年度公共ホール演劇ネットワーク事業報告書

編集・発行／一般財団法人地域創造

発行日／令和2年3月